

手術の実績は件数だけでなく、安全性を確立した信頼される病院へ

手術部 栗田 衛 看護師長



PROFILE

くりたまる◎1981年八幡浜高等看護学院卒業。愛媛大学附属病院に就職し、手術部に13年間スタッフとして勤務。その後、看護管理室、放射線部、整形外科の師長などを経て、再び手術部看護師長に就任。趣味は仕事と磯釣り。

現在の手術室は全面的に改修が行われ、昨年全ての工事が完了したものです。手術室を部分的に稼働しながら改修することは、全国でも前例のない試みといえます。半分稼働しながら、半分改修工事を進めるという方法をとったため3年を費やしました。その間には工事の騒音があり、患者様にもご迷惑をおかけしましたが、大きな事故もなく、無事完了することができました。既設の手術室10室を改修して、8室の広い手術室とし、新設した短期滞在型手術室2室を合わせて計10室。ベッド数でいうと多い方ではありませんが、部屋は格段に広く

なりました。現在、手術室には様々な医療機器を設置するため、できるだけ広い部屋が理想です。新設した設備の中で注目すべきは、プラズマディスプレイなどを用いた画像システム。全室に50インチのディスプレイを配置して、手術の映像などを映し出します。映像は録画され、2週間ほど保管されます。あつてはならないことですが、問題があった場合、後日この映像を確認することも可能です。これからは手術の様子も公表していく時代、手術中の映像は手術部受付やカンファレンス室で患者様のご家族に見ていただくこともできます。

他にも、内視鏡手術用の光学器械をはじめ、手術ベッドや麻酔器など、手術設備では最先端の機器を揃えています。また、生体肝移植などの移植医療症例も行っており、当院は四国で唯一、生体肝移植を行っている病院です。

当院の手術件数は平成17年度で約4000件、昨年度より1割ほどアップしています。

その要因は、新しい手術室になったことに加え、手術室が有効に稼働するようにマネージメントできた結果だと思います。しかし、手術は数だけではなく、より高い安全性を目指さなければなりません。当院では術中の細菌感染を防ぐため、より空気の清浄なクリーンルームを設けています。通常の外気中のホコリは1立法フィートに10万以上あるとされ、当手術室は通常外気の1/1000以下、クラス100の空気清浄度のクリーンルームが3部屋、残りの7部屋もクラス1000の清浄な環境を保っています。

技術面でも、チームで安全を確保することが重要です。医師や看護師をはじめ、チームが一丸となって日々努力を重ねています。そこで、愛媛県の手術看護のレベルアップをしようと、今年から私が発起人となって、愛媛県の手術室看護研究会を立ち上げ、研修会などを行っています。手術は患者様にとっても、命に関わる一番大切な時です。そこに自分たちの力が要求されているのですから、患者様が望む手術を提供するために、最善の努力を惜みずしていきたいと思っています。

